SFS通信

平成22年10月10日発行(2010年)
日本ボーイスカウト新潟連盟
スカウトフェローシップ委員会
事務局 〒951-8052新潟市下大川前通4の町

新潟連盟からは、派遣3隊(L17名VS31名BS78名)、富山1隊10名派遣団要員5名、本部要員16名)総勢157名が参加し、全員無事ジャンボリーライフを楽しむことが出来ました。SFSでは全員の方に原稿を依頼したところ、実に多くの体験記をいただくことが出来ました。そこで、そのすべてを御紹介すべく大幅増ページし、特集号といたします。日連スカウト誌9月号(15NJ記念アルバム号)と併せてご覧いただき、スカウトが何を感じ、何を得てきたのかをご確認いただければ幸いです。

【目次】

参加スカウト体験記
富山第5隊 …… 2～ 4 頁
新潟第1隊 …… 5～10 頁
新潟第2隊 …… 11～13 頁
新潟第3隊 …… 13～15 頁
参加指導者体験記
派遣隊要員 …… 15～17 頁
派遣団本部要員 …… 17 頁
大会本部要員 …… 18～21 頁
閉会式特別ゲスト 岡田監督のお話 …… 22 頁
(素晴らしい内容でしたので、日連ホームページから転載しました。)
見学隊記録 …… 23 頁
リレー寄稿 (第一回ジャンボリーの思い出) …… 24 頁
県連情報・SFS情報 …… 25 頁

参加スカウト体験記（富山第5隊）

富山第5隊の皆さんへ

阿賀野1　清田　優（中3）

残暑がまだ続いていますが、富山の皆さん元気にしていますか？ジャンボリーの時はあまり暑くなかったのですが、新潟に帰るとものすごく暑かったです。富山の暑さはどうですか？何はともあれ元気でいてください。

ジャンボリーでは富山の皆さんと一緒にキャンプできて楽しかったです。いろいろなプログラムに参加できて良かったです。印象的なプログラムが場外プログラムでした。座標を頼りに目的地に着くのが大変でした。曾我の歴史や白糸の滝などが見れて良かったです。場内プログラムでは五感ゲームが印象に残っています。班で協力してゲームを楽しめました。ジャンボリーに参加したスカウトは富士山を見るのが初めてだと思います。自分は赤富士を見るのが初めてで、すごかったです。当番班の時は富山のベンチャーにも手伝ってもらいました。おいしいご飯ができて良かったです。ジャンボリーでいろいろな経験ができて良かったです。

この経験を胸にこれからのキャンプでいかしていきたいです。

最後に楽しいキャンプになって本当に良かったです。ありがとうございました。

富山第5隊の皆さんへ

阿賀野1　深澤　周平（中3）

夏の暑い日が続いていますが、お元気にしていますか。富山5隊の皆さん、8泊9日のジャンボリーでは大変お世話になりました。

ジャンボリー前の訓練キャンプやジャンボリー期間中では、富山5隊のスカウト、隊長の皆さんと仲良くしてもらいとても楽しかったです。

プログラムではたくさんのハプニングがありましたが、どのプログラムも楽しくできました。

サイト内では、富山のスカウトと新潟のスカウトの間で会話が弾み、とても楽しい時間を毎日体験できて、とても良い思い出をつくることが出来ました。料理もうちの団で作る時よりも楽しく作れたし、おいしい料理がたくさんできて久しぶりに楽しく食事をすることができました。

ジャンボリー大集会や閉会式ではいろんなゲストが来てとても楽しかったですね。

富山5隊の皆さんのおかげで9日間、楽しく、けがなく、とても良い思い出をつくることができました。富山5隊の隊長さん、スカウトの皆さん、9日間たくさん迷惑をかけましたが大変お世話になりました。

これからはジャンボリーで体験したことをいかし、これからのスカウト活動に取り組んでいきたいと思います。富山5隊の皆さん、これからもまだまだ暑い日が続くと思いますが、お体に気をつけて元気に過ごしてください。

富山の皆さんへ

阿賀野1　遠山岳海（中3）

暑い日も続きますが、お元気ですか。

ジャンボリーでは富山の団の人とも仲良くいっしょに楽しくジャンボリーを過ごすことができました。ジャンボリーの行事では全部がとても楽しくできました。その中でジャンボリー大集会がとても思い出に残っています。岡田監督や奥華子さんに会えてとてもよかったです。プログラムでは「環」が茶道や華道や書道をやれて一番楽しかったです。食事はみんなと協力して作っておいしい料理ができとてもよかったです。

隊長さんたちのおかげで普段は体験できないことを体験させていただきました。そしてケガも無く無事に新潟に帰ることができました。9日間いろいろなことでお世話していただきありがとうございました。僕もがんばるので隊長の皆さんも体に気をつけて頑張ってください。

富山第5隊の皆さんへ

阿賀野1　下間翔太(中1)

残暑もまだまだ続いて、秋らしさがまだまだ先のように思えます。富山の皆さんはお元気ですか。僕は元気にしています。ジャンボリーの時は大変お世話になりました。とても思い出に残るキャンプになりました

15NJでは楽しかったこと、感動したことがあります。まず、初めて富士山を見たことはとても感動的でした。ジャンボリー大集会で岡田監督に会えたことや、閉会式での花火は中でも一番感動したところでした。ですが、逆に苦しかったこともあります。それは、ほとんど毎日が雨で、地面がとてもぬかるんでいたことや、昼間の日照りがすごかったことです。

富山の人達との交流がとても楽しかったです。本当にお世話になりました。ジャンボリーでつくった思い出は一生忘れません。富山のみなさん本当にありがとうございました。

富山の隊長方へ

阿賀野1　重野　守(小6)

まだまだ暑いですね。いつになったら涼しくなるのでしょうか。

ジャンボリーではいろいろな経験をしました。楽しかったことはハイキングで道に迷ったことです。さまようのが面白かったです。富士山も見えました。初めて見たのでとても感動しました。食事では全く食べられませんでした。毎日残したり減らしたりしてなんとかしました。

隊長方にはいろいろお世話になりました。例えば出かける時にいろいろなアドバイス等をもらいました。ぼくは水泳をがんばっています。隊長も体に気をつけてください。いろいろありがとうございました。

富山の隊長方へ

阿賀野1　宮下　雅光(小6)

暑い中、いかがお過ごしですか。

日本ジャンボリーでは、他の団の人とも仲良くすることができ、活動やプログラムがとても楽しかったです。とくに楽しかったことは、ジャンボリー大集会です。いろいろなゲストが来てとても思い出になりました。途中雨が降ってキャンプサイトが水びたしになり、とてもどろまみれになりました。ブヨにもさされとてもかゆかったです。食事の時はとくに何もしませんでした。ご飯はとてもおいしかったです。

8泊9日の長期キャンプでしたが、隊長さんたちのおかげでケガをすることなく活動することができました。本当にありがとうございました。

ぼくはこれからもスカウト活動をがんばりますので、隊長さんも体に気をつけて頑張ってください。

第15回NJに行って

新発田1　高沢　雅史(中1)

ぼくは生れて初めてジャンボリーに行きました。ジャンボリーでは他ではできない体験ができました。

ぼくはいつもの新発田キャンプよりも長いキャンプで9日間もキャンプをしてすごく疲れました。そのかわり富士山をすごく間近で見れてすごいきれいでした。すごいきれいでしたので写真をいっぱいとることができました。

もう一つ楽しかったことはプログラムです。プログラムでは地震がおこったときと同じ床を体験しました。それとプログラムのおかげで、いろいろな記念品と交かんができました。交かんの時はバッチ、ワッペン、チーフリングなどを交かんしました。

次は3年後のジャンボリーに行きたいです。だけど日本でやる世界ジャンボリーには行きたくないです。

お世話になった富山5隊へ

新発田1　大久保光汰(中2)

第15回日本ジャンボリーではいろいろとお世話になりました。いろんなことをやってとても楽しかったです。

開会式は雨の中で寒く、その中でやりましたね。寒かったけどとても楽しかったです。2日目は雨のせいで暗号が意味がありませんでした。3日目は場外プログラムで、ホエール班は道に迷って、バスに帰った時は時間がすぎて迷惑をかけました。4日目は大集会ですっごく楽しかったです。ゲストもきていろんな県が出し物をやっておもしろかったです。6日、7日目は場内でいろいろと回っていろんなことをしました。8日目で閉会式で花火が上がったりしてすごく楽しかったです。

7日間いろいろとお世話になりました。本当にありがとうございました。また会えたらその時はよろしくお願いします。ありがとうございました。

9日間お世話になった富山第5隊隊長、富山第5隊のみんなへ

新発田1　小柴悠生(中1)

ぼくは8月1日夢だった4年に1度の日本ジャンボリーに行きました。行くだけに地域の皆さん、そして何よりもお母さん、お父さんの協力のもと行けたので皆さんにはとても感謝しています。

また、ジャンボリーの事を思い出しては隊長のこと、そして何よりも友達のことが思い浮かんできます。「またジャンボリーに戻りたいな」とかも思います。このジャンボリーで出会った人たち、あった出来事全てが忘れられない思い出です。この9日間楽しく過ごせたのも富山第5隊隊長、富山第5隊のみんなのおかげです。

また、今後ご一緒する機会があれば、またよろしくお願いいたします。9日間どうもありがとうございました。

参加スカウト体験記（新潟第1隊）

第15回NJに行って　新発田1 VS 高橋 亘(高1)

今回の15回日本ジャンボリーに行って感じたことはボーイスカウトの特殊性です。どこにボーイスカウトの特殊性を感じたかと言うと、二万を超える参加者がみんな同じ目的に向かって一つのところで約一週間一緒に過ごすことのできる環境が整っていることや、それに協力してくれる人が多くいることです。

ジャンボリーではいろいろなことを思うことも多かったけど、いろいろな思い出もできました。例えば、道行く人と挨拶を交わせばそこから話が盛り上がり道端でずっとしゃべっていたり、初日は少し重い空気だったサブキャンプ内も、最終日に近づくにつれてほぐれていったりと様々なことがありました。

自分の言葉で今回のジャンボリーを表わすなら「楽しかった。」と言うのが一番の感想です。

次回からはスタッフかもしれないけど機会があったらまた行きたいと思います。

第15回NJに行って　新発田1 VS 長谷川一貴(高2)

今回のジャンボリーに参加してみて思ったことは、前回よりも大変だったということです。今回の会場の朝霧高原は気温の差が激しくて、日差しも強くて、過ごしづらかったと思います。ですが、富士山を見ることができ、大自然に囲まれたとてもいいところだと思いました。

今回、参加隊ベンチャー班としてプログラムに参加できてとても楽しかったです。場外プログラムの富士山登山では、山頂に行くことはできなかったけれど、富士山に登ることができて、とてもいい思い出になりました。

他の地域の人たちとも、たくさん交流しました。サイトが隣だった大阪とは、夜に交流会をしてとても仲良くなりました。他の地域と交流することで、いろんな発見がありとても面白かったです。

今回のジャンボリーは大変だったからこそ、協力するということを学ぶことができたと思います。とてもいい経験でした。

第15回日本ジャンボリーに参加して　新発田1 高橋 翠(中2)

私がジャンボリーに行って一番印象に残ったことは、富士山です。

朝霧についてから三日目までは霧や雨などで一度も見ることが出来ませんでしたが、三日目のプログラム中に富士山の上の方だけ、とても近くで見ることができました。私の周りにいた人は、みんなカメラで富士山を撮っていました。でも私はカメラを持っていかなかったので、初めて間近で見た富士の写真を撮ることが出来ませんでした。その時は残念でしたが、サイトに戻ってから残りの何日かは雨が降っていない日には、きれいな富士山を見ることができたので良かったです。

四日目場外プログラムで富士山へ行く時は、五合目に近くなっていくと雲が全部下に見えて、自分達より上には一つも雲がありませんでした。富士山は本当に高い山でした。

今回のジャンボリーはとても楽しかったです。三年後のジャンボリーも行きたいです。

第15回NJに行って　新発田1 高沢 謙介(中3)

8月1日から8月9日まで僕は第15回日本ジャンボリーに参加しました。僕は自分が住んでいる新潟の隊ではなく、富山5隊で過ごしました。富山の人とはその時初めて会ったのですが、スカウトも隊長もいい人ばかりだったのでホッとしました。

ジャンボリーには、ここでしか体験できないような様々なプログラムがありました。その中で僕が印象に残っているのは、場外プログラムのオリエンテーリングです。すごく疲れましたが、その土地の歴史に触れることができすごくいい経験ができたと思います。

そして僕が一番印象に残っているのは、ジャンボリー大集会です。スカウトがすごくたくさんいてびっくりしました。ワールドカップサッカー日本代表監督の岡田武史さんなどの著名人もスカウトだったのは知りませんでした。

そこでの事を忘れずに普段のスカウト活動に参加していきたいです。

ジャンボリーで気づいたこと

新発田1　永松　千尋(中2)

私はこのジャンボリーで気づいたことがある。それは笑顔の大切さだ同じサブキャンプのタイ人とプレゼント交換をしているときだった。言葉はあまり通じないが、笑顔でいると自然に寄ってきて話しかけてくれる。気づけば、私の周りに人の輪ができていたりする。また、私が誰かに話しかけるとき、その中で笑顔の人を選んで声をかける。あまり上手ではない英語でも、お互い笑顔だと何だか親しみが増してくるから不思議だ。笑顔は世界共通、すばらしいコミュニケーションの手段であることを実感できた。私は、これからいつでも、笑顔を忘れずにいたい

この夏、そのことに気づかせてくれた、ジャンボリーにありがとう！

現実放置

中条1　三浦真那倫　(中3)

「あと何日だっけ？」　最初の数日間は早く終わって帰ることばかり考えていました。テントは一発目から浸水するし、朝起きるのは早すぎるし、自分は途中でだめになるのかと思いました。しかし、3．4日たつとそんな過酷な生活にも、体が慣れていきました。

私は今年受験生なので、8月は塾の講座がたくさんあります。ジャンボリーの開催日はすべて塾とかぶっているので、母に何度も「本当に行くの？」と問い詰められました。高校受験は人生の中でも大切なことですが、私は塾の先生方や両親の反対を押し切って、ジャンボリーに行くことを決心しました。

参加して良かったところも悪かったところもありました。普段、普通に学生をやっていれば野外活動をしたり何日も外で泊まることはまずありません。それに、同じ年代の外国の人と接することだってないでしょう。しかし私はそれらをジャンボリーに参加することで、それ以上の素晴らしい経験をしました。”スカウトはみな兄弟”という言葉がありますが、この言葉の意味を強く実感することができてうれしかったです。改めてボーイスカウトの活動は自分の人間として一番大切な部分に影響しているなあと思いました。

このように参加したメリットはたくさんありましたが、家に帰った私には現実生活との差がありました。重いリュックを背負い、「行ってきます。」と言い残して背を向けた塾や学校の宿題たちは、ちゃんと私の帰りを待っていました。

「ほんとにジャンボリーに行くの？って私聞いたよね･･･」と塾の先生に嫌みを言われ、8月のボロボロの統一模試の結果通知を機に、私のあわただしい夏休みは終わりました。

日本ジャンボリーに参加して

中条1　三浦直也　(小6)

ぼくは8月1日から9日まで、静岡県の朝霧高原で日本ジャンボリーに行ってきました。ジャンボリーはとても楽しめました。その中でもっとも楽しめたプログラムが二つあります。

一つは、プログラム「技」でやった薪割りと間伐クエストです。薪割りはオノを右手前、左手を後ろに持ってオノの重みだけで切れたのです。すごく気持ちよかったです。

二つ目は閉会式です。閉会式は2時間ぐらい前にならんで、新潟1隊は一番前で見ることができました。閉会式でいんしょう的だったのは、新潟県連盟旗が入ってきた時、新潟は3隊しかないのにすごいかん声が上がったことと、かがり火点灯の時16NJのたいまつに燃え移った時が感動的だったことでした。

この二つが15NJで心に残った思い出でした。

感　想

中条1　小池哲平（小6）

ぼくはこのジャンボリーで体験した思い出や感想をここに書きます。ぼくが一番楽しかったのはプログラムなんかより、班のみんなでご飯をつくったり、テントで寝たり、一緒に行動したことです。

あるときは、僕とT君で、夕飯つくりの時仕事がなかった時には、他の班のひまな人をかき集めて、寄せ集め小隊をつくり、職探しの旅に出ました。また、僕が風邪をこしらえてダウンしている時に、T君とY君が冷えピタを貼ってくれたり、氷嚢をあててくれたりと、逆にこっちが気を使うくらいにお世話をしてくれました。永松副長も遠い救護所まで僕を連れて行ってくれたり、小林隊長もわざわざ親に電話をかけてくれました。

トウモロコシプロジェクトも楽しかった（？）です。トウモロコシ団子は、ぶっちゃけた話、食えたもんじゃなかったけど、恵まれない子供の苦しみがわかりました。

宗教儀礼では、最初、宗教に興味はなかったけれど、演説を聞いてみるととてもすばらしいことを言っていたので感心しました。

他の県や国との交流の思い出も、僕の脳みその中に深く刻まれています。大阪との交流会、ビックリしました。大阪弁はテレビなどで聞きなれていたけれどいざ実際に、「自分、おっきいなーほんま腰抜かしてしまうわ」と言われると、緊張してしまいました。ノリも良かったです。罰ゲームの時、やだよなど言わず、すんなり前に出てどんなリクエストもこなします。どんなヤジも「やかましいわ」で笑いに変えます。

タイ人もびっくりしました。なんたってその身長の大きさったらありません。中3で185cmの人とかもいました。これらの経験を生かし、次回のジャンボリーも行きたいです。

ジャンボリーの思い出

中条1　鈴木　陸（小6）

ぼくのジャンボリーの思い出は富士山です。

ぼくは、富士山に前から登りたいと思っていたのでうれしかったです。五合目までバスで行きました。バスの中で富士山を見たらすごく高くて、バスが登っているのに全然登っている感じがしませんでした。

そしてバスから降りると空気がうすくて、気圧変化で耳が痛くなりました。五合目でもう雲の上で木が生えていませんでした。登り始めてすぐつかれたので不思議に思いました。六合目まで来たとき、新潟の別の隊の人が道を間違えたみたいで引き返してきました。もう一つの道を進んでいると、さっきの道が正しかったみたいでさっきの道を登って行きました。その道をいったら下り坂を降りてそこで記念写真をとりました。厳しい登り坂を登ったら、宝永山という山の頂上でした。宝永山は富士山から突き出ているでっぱりのような山です。そこでお昼を食べました。風が強くぼうしやリュックが飛んで行きそうでした。

下山の時は登りの時とはちがい、細かい石や砂が多い道でした。石や砂が細かいと足もとがくずれたりしずんだりしたので大変でした。くつにも石や砂がはいり痛かったです。下山してバスに乗りキャンプサイトまで行った足が筋肉痛で痛かったです。

でも富士山の宝永山の頂上まで行けたので達成感がありました。

15NJの感想

新潟15　VS　天野　真帆

ジャンボリーに行ってみて、前回のジャンボリーと全然違いました。天候も初日から大雨で地面がぬかるんで、歩くのもやっとでした。3日目くらいから晴天だったけど最終日目前にして、夜中の大雨がひどく、テントも片付けてしまったので、寝床がなく、いすの上で寝て全然眠れず寒かったです。

2日目にあった富士登山もトレッキングシューズを準備していなくて、普通のハイカットで行ったのでとても大変でした。上りもキツかったけど、下りの方がキツくて大変でした。

3日目からはプログラムをして、暑くて暑くて移動が大変でした。閉会式やジャンボリー大集会は楽しかったです。隣のサイトの大阪のスカウトたちととても仲良くなりました。

今回は、前のジャンボリーよりもすごく長かったし、気温の寒暖差も激しく、体調を崩す人も多かったでっす

今回のジャンボリーでやはり,ちかいとおきての「そなえよつねに」ということを学べたのでよかったです。

15NJ感想

新潟15 VS 鈴木依未加

15回ジャンボリーは、私にとって2度目の経験でした。

1度目は中学1年生で、隊の中で一番年下だったので何をするにも、班長・次長や、年上の班員に頼りっきりで毎日とても楽しく過ごすことが出来ましたが、今回は隊の上級班長を任せられ、前回とは真逆の立場になりました。自隊では、班長や上級班長の役割をやったことはありましたが、今回はほとんどが初めて会うスカウトたちばかりだったので、みんなの事をまとめることが出来るのか、自分に上級班長がちゃんと務まるのか、不安でした。

不安を抱えたままジャンボリーになり、初日はやっぱり、戸惑ってしまい、きちんと指示を出すことが出来ないまま1日が終わってしまいました。2日目からは、本格的にジャンボリーが始まり、やらないといけないことが増えてきて、少しずつ大変なスケジュールになりましたが、日にちが経つにつれて、班員同士が仲良くなり、指示を出しても動いてくれないスカウトが増えてきたりと、班長会議でいろいろな苦情が出始めて、改善点をみんなで遅くまで話し合い、次の日に班長が話し合ったことを実行に移したりして、後半の頃には、班長が前半とは比べものにならない位まで成長してくれて、班員をしっかりとまとめてくれて、見ていて嬉しくなりました。最初は、こんな班で大丈夫なのか心配でしたが、最終日にはこの班もこれで解散なのか、と寂しく感じました。新潟第1隊の上級班長になれてよかったと思っています。

それと、閉会式の弥栄三唱は、2万人の前で代表として出させてもらい、めったに出来ない貴重な体験をさせてもらい、今年の夏の一番の思い出になりました。

ジャンボリーでは、本当に貴重な体験ばかりさせてもらいました。

ジャンボリーの感想

新潟15 VS 石井秀治

今回のジャンボリーは、今までの奉仕隊ではなく、初めてベンチャースカウトも参加隊として参加できることになったので参加しました。

最初に隊に行ったときは、自分の知っている人はほとんどいなかったので、正直とても不安でした。しかし、日に日にベンチャー班の人とも仲良くなって楽しいキャンプ生活を送ることができました。

ジャンボリー期間中は、天候に恵まれず、毎日必ずと言っていいほど雨がふっていて、ほとんど長靴をはいていたことを覚えています。プログラムで印象に残っているのは、富士山のわきにある山を登ったことと、ベンチャー班で出店をやって、売り上げを上げたことです。登山では、隊長が登山中にダウンしてしまい、早くに下山してしまうアクシデント(？)もありましたが、隊のみんなと登山をして、とても楽しかったです。山の休憩場所での景色は今までに見た事がないくらいきれいなものでした。

出店では、ヨーヨー釣りを計画し、前日の夜に何個かのヨーヨーを作ってふくらませておき、朝もまた少しヨーヨーを作るという少しハードな日程でしたが、ベンチャー班で協力して、少しの赤字は出てしまったけれども、みんなで出店をうまくわますことが出来ました。

さらに、夜には、新潟2隊のサイトで、タイの人とミニバレーボールをしたときは、かたことの英語を駆使しながら、一緒のチームで楽しんだり、敵として勝負したりと、真剣ながらも交流を深める日や、ベンチャー班でほかの県の人と交流会を計画し、その後も仲良く交流したり、交換品を交換したりと楽しい夜を過ごしました。

閉会式が終わった後に、最低限必要なもの以外はすべて撤収してしまったあとに、大雨に降られ、椅子に座って寝た時は、洪水になって流されてしまうのではないかと心配になりました。椅子の上はやはり寝袋で寝るよりも寝心地はすごく悪く、次の日の朝はすっきりした目覚めではありませんでした。

今回のジャンボリーは、前にも書いたように、本当に天候に恵まれず、暑かったり寒かったりの連続ですごくいやでしたが、雨にも負けない楽しさと、他のスカウトとの協力で元気に楽しくキャンプ生活やスカウト活動ができてとてもいい夏の思い出になりました。

このジャンボリーでの経験を原隊の活動に生かし、良いスカウトになるために日々精進していきたいと思います。

15NJ感想

新潟15 VS 国田 圭介

朝五時、まだ眠気の冷めない早朝。約10日間生活するためにパッキングした、今まで担いだことがないような重さの荷物を担いで家族の車から降りる。「一週間以上新潟にいないんだなぁ…。家族とも会えないんだなぁ…」と消極的になりつつ荷物とバスに乗る。

バスが出発する。ボーイ隊、ベンチャー隊のリーダー、送ってくれた祖父が手を振る。そんな単純な動作がすごく心強かった。ただ手を振るだけで、ここまで心が温かく、支えになるものなんだな、と改めて思た。

下越をでて、三条を過ぎて、上越に入って、清水峠を越えて。眠いはずなのに、富士に行く、多くの人とキャンプをする、友達とトラブルは起こらないだろうか、怪我したらどうしよう…、色々な好奇心、不安が頭の中をかき回して眠ることができない。そして眠気の混じったまま、富士についた。

当日は、あいにく曇りで日本一高く、日本一美しい山を拝むことはできなかった。メインの会場はまるでライブでも行われるのではないだろうか、と思うほどの規模だった。再び荷物を担ぎ、サイトに向かっていく。ツリーサイトに到着した。設営が終わったサイトもあった。サイトに荷物を下ろし、設営を始める。終わるころにはもう夜だった。

二日間かけて設営が終わった。もう疲れが出始める。シャワーを浴びると、ぬるま湯だということに気づく。それでも十分だった。

富士の隣にある山に登った時、本当に「富士すげーーーー!!!!」と思った。

今までの不安をすべて吹き飛ばすような感覚が自分をつきぬけたようだった。日に日に疲れがたまり始めてきた。

一日一日過ぎていく度に「帰りたい、帰りたい」という願望が強くなっていく。疲れもたまっていたのか、しだいに体調を崩し始め、ついに熱を出してしまった。あまり作業も、ゲームもできずに終わってしまった。それでも閉会式は出れるようになり、感動のクライマックスを見逃さずに済んだ。

帰ってきた。新潟に。バスを降りて、ようやく力がぬけた。楽しさの反面、自分の弱さ、不甲斐無さを感じたジャンボリーであった。しかし、確実に何か成長した気がするジャンボリーだった。

日本ジャンボリーに参加して

新潟15 渡辺 亮(中1)

僕は、この夏休み、初めて日本ジャンボリーに参加しました。この9日間のキャンプは、僕にとって色々な事を学ぶ貴重な場となりました。

まず学んだことは、自然の優しさと厳しさです。大会中は天候が安定せず、夜中の大雨により、テントが倒壊した班もありました。また、テントが倒壊しなくても、テントが浸水し荷物がぬれてしまった班もありました。しかし、陽が出れば出たで、ブヨ等の虫の被害に悩まされました。普段は経験できないような自然の厳しさを知りました。しかし、雨が上がれば虹が架かったり、富士山が見えたり、美しい景色を見る事ができました。この、自然の素晴らしさを壊さずに次の世代に残したいと思いました。

次に学んだことは食の大切さです。トウモロコシプロジェクトでは、難民の人達が食べているトウモロコシの粉が支給され、それを工夫して食べるということをやりました。そのままだとおいしくは無いけど、調理の仕方ではなんとか食べられるくらいになりました。僕達は体験としての一食だけでしたが、飢餓や貧困の現実を見つめ直す機会となってよかったです。今の僕にできることは少ないけど食べ物を大切にして、飢餓と貧困の現実を忘れずに生活することを心掛けたいと思います。

僕がこのキャンプで経験し、強く感じたことを一言で表すと「感謝」という言葉です。自然の優しさと厳し

さに経験させてくれたことに感謝。食の大切さに気付かせてくれたことに感謝。たくさんの人に支えられて安全に楽しく生活できたことに感謝です。

次の大会にも参加するために、今回の経験を活かして後輩スカウトの手本となれるようがんばりたいです。

15NJの感想

新潟15 牧野 登(中1)

僕は今年の夏、8月1日から8月9日まで「日本ジャンボリー」という活動で静岡にいた。親元を1週間以上も離れるなんて初めはすごく心配だった。

しかし、実際に行ってみると非常に楽しく、他の県のスカウトや海外のスカウトと仲良くなれたし、同じ県のスカウトの人とはより仲を深められたので良かった。

僕は、8月5日に行なわれた「ジャンボリー大集会」が一番楽しかった。僕の好きなサッカーの日本代表監督、岡田さんも来てくださったし、チアガールの方々、奥はなこさんも来てくださった。だから、ジャンボリー大集会が一番良かった。

二番目に良かったのは閉会式。閉会式は、この10日間を締めくくる会だったし、僕の団の先輩も出ていたので二番目に良かったです。

三番目に良かったのは、開会式です。10日間が始まる会だし、皇太子も来てくださったからです。

この、「日本ジャンボリー」の良さは、行く前はとても不安だったりするし、1日目もすごくホームシックにもなります。しかし、2日目には開会式があり、その翌日からプログラムが始まります。なので、とても楽しいです。

帰って来た時の「幸福感」、「満足感」これは10日間がんばり続けた人しか味わえないから、行ってきて僕は本当に良かったです。

また、行く機会があったら行こうと思いました。

第15回日本ジャンボリーに参加して

佐渡2 富内 遼(中2)

僕は先月の7月31日に佐渡を出て8泊9日の未だかつて経験したことのない長期キャンプ「ジャンボリー」に参加しました。その中でも楽しいことや、大変なことなど色々ありました。その中でも特に三つを上げます。

1つ目はジャンボリー自体です。僕の団のキャンプは2泊3日が普通で、それ以上やったことはなかったです。なのでそれだけでとても大変でした。

2つ目はプログラムです。場外プログラムはとても楽しく、特に「技」が一番おもしろかったです。

3つ目は大集会などです。岡田監督や色々なゲストが来てとっても盛り上がって面白かったです。

このジャンボリーの中で仲間と仲良くなれたのも良かったです。長いと思ったジャンボリーも終わってみれば早かったです。

第15回日本ジャンボリーに参加して

佐渡2 佐々木 優(中1)

ぼくが静岡県富士宮市の朝霧高原で行われた第15回日本ジャンボリーでの初めての体験、感動したこと、楽しかったこと、失敗したことは、たくさんありました。

初めての体験は、長期間のキャンプと、富士山を6合目まで登山をして、宝永山に登ったことです。宝永山は上の方まで行くと寒かったです。宝永山で昼ご飯を食べました。帰りの道は火山灰がくつの中に入ってすごく痛かったです。

楽しかったことは、開会式やジャンボリー大集会、閉会式、プログラムなどがありました。特に印象に残っているのは、ジャンボリー大集会に元サッカー日本代表の岡田監督がきたことです。そこで岡田監督が子供の頃ボーイスカウトをやっていた事をはじめて知りました。もう一度朝霧高原に行きたいです。

参加スカウト体験記 （新潟第2隊）

15NJに参加して

新潟7 VS 池田 啓

私は今回のジャンボリーを楽しみにしていた。大抵の人がそうだったかも知れないが、私はそれ以上に楽しみにしていたと自信を持って言える。

何故、それほどまでに楽しみにしていたかと言うと、私は14NJ，日米SF、名誉奉仕訓練に参加して今までに会ったことのない他県、他団のスカウトと交流する楽しさを知っていたからだ。特に14NJで同じ班だった米スカウトとは4年たった今でも連絡を取り合っている。私は15NJでも彼と同じように連絡を取り合える友達を探すために多数のスカウトと交流したいと考えていた。

私は今回参加隊VSとして参加したのだが、自分が楽しむのと別に考えていた事があった。私は「BSに少しでも多くのスカウトと交流してほしいな！」と。それを実現させる方法として、交歓会を数多く行うことにした。結果から言うと、私達の隊はたくさんの隊と交流ができた。此処に各隊との交歓会までの経緯と内容を書きたい。

静岡13隊・・・ 日米SFで知り合った繋がりで。ジャンボリーで鯉のたたきが食べられるとは・・・。
大雨の中、泥道を経由して・・・・。

東京37隊・・・ 道端で意気投合して。夜のバレー大会。
短い時間の中での運営で・・・・。

三重1隊・・・・ 道に落ちていた名札を届けに行って。隊員を半分交換しての営火で・・・。

タイ・・・・・・・・ 隊のサイトだったこともあり常時交流していた。国際排球親善大会、
そして何と言ってもキャンプファイヤ、片言の英語でなんとか進行して。
If you are happy♪の三ヶ国語での合唱・・・・・。

ここに書いた以外にもちょくちょく様々なスカウトがバレーをしに来たり、話をしに・・・。参加したスカウトに聞いてみると交流できて良かったと言ってくれた。私の目標は果たせた。

最後に今回交流したスカウトに再び会える日がすぐに来ることを強く願いたい、私は。

15NJに参加して

新潟7 鈴木快旺（中3）

僕は新潟派遣団として初めて日本ジャンボリーへ行きました。

日本ジャンボリーでは日常生活では味わえないさまざまなイベントに参加することができました。各プログラムサイトで自然の遊びや人の命について学んだり、富士山に登ったり、他県の隊や海外の隊の人達と交流したり・・・とても貴重な体験をたくさんすることができました。

特に僕が楽しいと思ったのは、他県や海外の人たちとの交流です。一緒にキャンプファイヤーで歌って踊ったり、交換会をして楽しくおしゃべりすることでたくさんの国や地域の人と仲良くなれてとてもうれしかったです。

しかし、楽しいことばかりでなく、連日の大雨でキャンプサイトは泥だらけになり、テントの中に水が入ってきたりして大変でした。でもそれを乗りこえて無事に生活することができたのは、やっぱり一緒にいる仲間があってこそだと思います。自分の隊の仲間たちともいっそう絆を深めることができました。

第15回日本ジャンボリーは、もう二度と味わえないくらいの最高の思い出になりました。この素晴らしい体験は一生心に残ると思います。

15NJの思い出

中蒲原7　松本　諒（中2）

朝霧高原への道のりは新潟駅をバスで出発し約7時間かかりました。前日は興奮で睡眠不足でした。僕は中学二年生で初めての参加でした。

到着してテントを建てた後、隣のサイトにいるタイの人たちと交流しました。日本語のあいさつの練習をしていたので、少しだけ日本語を教えてあげました。

8月4日に宝永山を登山しました。富士山の五合目から登山を始め六合目で道が分かれていました。その途中は一歩歩いただけで息切れがしました。まさに心臓破りの坂でした。でも、それを乗り越えてついに山頂へ着いた時、回りを見ると黒い火山れきばかりで植物が生えていませんでした。また、雲の中を体験して感動しました。

8月5日、スカウト平和の日に僕は熱中症で救護所行きになりました。この時の初めての体験は、救急車に乗ったことです。熱は38度7分まで上がり、とにかく苦しかったです。8月6日に体調が良くなったので自分のサイトに戻りました。1日で治って良かったです。

10日間のキャンプで最初と最後が雨でした。テントは浸水し、草が生えていない所は田のようでした。でも、無事終えられたのは大勢の人の支えです。お世話になりました。3年後もきらら浜のジャンボリーもベンチャーとして参加したいです。

でっかくはばたけ　ジャンボリー

中蒲原7　今井泰貴（中2）

先日、ぼくは初めてのジャンボリーに行きました。ジャンボリー会場に着いて言ったことは「広い。楽しそう。」と言う言葉でした。そして、歩くこと20分、やっと「ツリー」というサイトに着きました。着いたらたくさんの他の派遣隊の人達がテントを建てていました。自分達も資材を運んでがんばってテントを張りました。

しかし6時間のバスでとても疲れていたし、雨の中での活動もあったので、その日はすぐに眠れました。

ある日に、「富士山(宝永山)を登る」というプログラムがありました。登り始めた時はだいじょうぶだったが、途中から急な登りになり、とても険しい山でした。2000m以上の山を登ることが初めてということもあり、頂上まではとても長く感じました。無事に頂上まで行き、下山することができよかったです。

もう一つの思い出は、交換会です。静岡と2回、他にも東京、三重としました。今まではなかなか人と話せなかったけど、がんばって声をかけてみることもできました。それで友達もできました。ジャンボリーでしかできない貴重な体験ができ本当にたのしかったです。

そして、タイ人の人とも交流ができました。タイ語は分からなかったけども、カタコトな英語で話すことが出来ました。今ではその人と友達になり、メールの交換もしています。今は「ジャンボリー最高！」といつも思っています。少し自分もいろいろな意味ではばたけたと思うし、これからも一歩でもはばたけるよう、がんばって行きたいと思っています。

参加スカウト体験記（新潟第3隊）

15NJの思い出

十日町1　小宮山　歩夢(中1)

僕の15NJの思い出は、3日目の「心」プログラムの＜竜ケ岳登山＞です。本当は雨プログラムに変更だったところを、連絡がなかったため予定通り登山しました。途中で雨が降ってきて、それでもしばらく登りましたが、霧で視界不良となり、登頂目前にして「富士山は見えないから降りよう」と下山することになってしまいました。登山をして頂上に立たずに下山したのは初めてのことだったし、楽しみにしていた富士山を見ることもできず、とても残念でした。けれどいつかもう一度竜ヶ岳に登り、頂上に立って、雄大な富士山を間近で見ようと思いました。

もう一つ心に残ったことがあります。それは、「技」プログラムの＜まきわり＞です。柄の長い、大きなアックスを使うのは初めてで、少し緊張しました。でも「スパッ」ときれいに割ることができて気持ち良かったです。そしてとてもうれしかったです。またあのアックスで＜まきわり＞をして、あの爽快感をあじわいたいです。

大勢の人たちや巡り合わせのおかげで、とても楽しく、充実した9日間を過ごす事ができたのだと思います。全部にありがとう、と思いました。

15NJでの感想

十日町1　金澤　伊織(中1)

初めての日本ジャンボリーでした。始めは8泊もするので長いと思いました。その長いようで短かかったジャンボリーでの思い出に残ったことがあります。

一つ目は毎日の食事です。食パンとレタスなど栄養バランスが整っていて、とても美味しかったです。また富士宮焼きそばという地域ならではのメニューやトウモロコシの粉を使ったすこし変わったプロジェクトがあり、どれも美味しかったです。

二つ目はテーマ別のプログラムです。テーマは六つありそれぞれ愛・絆・命・環・技・心と分かれていて、日ごとに変わりました。すべてのプログラムをやり終えて、たくさん学ぶことができました。

三つ目はジャンボリー大集会です。始めはどんな集会なのかわかりませんでした。でも行ってみるととても面白くて、おどろきました。なんとゲストで岡田監督や奥華子さんがきて、歌やインタビューをしてくださいました。そのほかにも、富山スカウトバンドの方などが出て、とても楽しかったです。

ほかにもたくさん伝えきれないほどの思い出があります。このジャンボリーで学んだことを生かし、これからの団活動で生かしていきたいと思いました。

15NJの感想

柏崎2 VS 高橋 崇頼

今回の15NJは、前回の14NJに比べ、雨と暑さでとても大変でしたが、自分が所属した新潟3隊のリーダーやスカウトたちと協力して9日間ケガなくすごせました。

やはり、ベンチャーということもありほとんどの体験にはどこか共通のものを感じ初めてとは思いませんでしたし、今回が二回目というのもあり、初めての体験は少なかったと思います。

他にも、楽しかったことや感動したこともありましたが、自分自身、心に残っているのは、最終日です。終わってしまうというのと、終わってしまったという二つの気持ちもあり複雑でした。

もうスカウトとしてジャンボリーは参加できませんが、これからはスカウト達を支えていきたいと思います。

第15回日本ジャンボリーを通して

柏崎2 VS 金田 史織

わたしは、今年初めて日本ジャンボリーに参加しました。このジャンボリーでの経験はわたしにとって全て刺激的で新鮮なものでした。

まず、日々の生活では、知り合った人たちと長期間同じキャンプサイトで過ごすのは楽しかったです。しかし、炊事をしたり、作業をしたりと様々な場面で協力することが重要であるところがありました。そのようなところで、わたしはあまり積極的に動く事ができず、周囲に迷惑ばかりをかけてしまい後悔しています。

それから各種プログラムもとても楽しいものでした。中でも「技」プログラムでは作ったものが賞を得る事ができ、とても嬉しかったです。

このジャンボリーでは、普段経験しがたいことが、たくさん経験でき、とても有意義なものでした。この経験をいつまでも忘れず、これからもボーイスカウトの活動に励んでいこうと思います。

第15回日本ジャンボリーを通して

柏崎2 山田 健二郎(中3)

僕はジャンボリーで初めて人に指示を出し人を動かす役に務きました。テントを立てる時も、食事の準備の時も、僕は人に指示を出して、動かすのは楽だと思っていました。しかし、この仕事は意外に厳しく、「仕事ありますか？」と聞かれた時、何と指示を出していいやら分からなくなってしまいました。このことを教訓に次のジャンボリーの時には、もっといい指示を出せるように頑張ります。

ジャンボリーでうれしかったことは、外国の人と話ができたことです。外国の人の方から気軽に話しかけてくれて、僕のなんちゃって英語もよく聴きとってくれて、しかも、ワッペンを交換までしてくれました。とてもうれしかったです。でも次のジャンボリーもなんちゃって英語だと恥ずかしいので次のジャンボリーまでに英語力を磨こうと思いました。

ジャンボリーはとても楽しかったです。次のジャンボリーも行きたいと思いました。

「第15回日本ジャンボリー」

柏崎2 尾崎 裕太(中3)

僕は、今回この第15回日本ジャンボリーに8月4日から途中参加した。

ここで、僕が感じたこと、思ったことは、「仲間と協力することの大切さ」である。今回のジャンボリーのプログラムでは、仲間と協力しないとできないようなプログラムは、少なくはなかった。そのような時、自分の班のメンバーの手助けなどが必要になり、互いに助け合うということの大切さをあらためて実感することができた。

ほかにも、自分がジャンボリーに途中参加したにもかかわらず、新潟3隊の小林隊長やスカウトのみんな、ベンチャーの方々にも、やさしく接してくれ、気軽に話すことができとてもうれしかった。

さらに、このジャンボリーで、新しい友達を作ることができ、気軽に話をすることができた。

今回の第15回日本ジャンボリーは、自分にとっていい体験になったと思うし、友達を作ることができた。そして、とっても楽しく、5泊6日だけだが、過ごすことができた。今回、楽しく過ごすことができたのは、

隊長や、新潟3隊のボーイやベンチャーのみんなのおかげだと思う。最後だが本当に楽しくそして、いい経験ができた。

次の第16回日本ジャンボリーは、3年後、山口県で行われるが、今回の成功した所、失敗した所を生かし、また参加したいと思う。本当に今回、楽しかった。

班長を務めて

柏崎2 矢作 早菜(中3)

私は今回初めてジャンボリーに参加しました。そして派遣隊第3隊のタカ班の班長をやらせてもらいました。正直、自分は他の隊の人達と一緒に活動したりすることははじめてで、うまくやっていけるか心配でした。しかし事前訓練をやっていく中で班員と少しずつ仲良くなり、心配はなくなって行きました。

ジャンボリーの中で班として一番思い出に残っているのは日々の炊事等です。はじめの頃はやっぱりスムーズに行かない部分もあり、隊長や副長に怒られながら何とかご飯を作っていました。自分もまともに班員に指示を出したりできず、反省点として直そうと苦労しました。しかし、三日目、四日目となってくると少しずつ慣れてきて、作業がスムーズに行くようになってきました。そして、自分も周りを見れるようになることができ、手が明いている班員に指示を出したりできるようになりました。

ジャンボリーでは辛いことや苦しいことがあった分、スカウトとして、班長として成長できたと思います。ですがまだまだと感じる部分がたくさんありました。そんな所をこれからの活動の中で直し、次回のジャンボリーではもっと楽しめるようになりたいです。

派遣隊要員体験記

「ジャンボリー」なるもの
～とあるインタビューから～

第3隊隊長 長岡1団 小林 裕人

インタビュアー(以下 イ)

「今回は、今年富士山の麓、朝霧高原で開催されたボーイスカウトの祭典、第15回日本ジャンボリーにて、新潟派遣隊の隊長をされました、小林裕人さんにお越し頂いています。長期に渡るキャンプお疲れ様でした。」

小林裕人(以下 小)「お疲れ様です。」

イ「今回のジャンボリーについて率直な感想などを頂きたいのですが」

小「私のジャンボリー参加は1986年の蔵王で実施された第9回の時、当時シニア(現ベンチャースカウト)で派遣隊の隊付として奉仕したきりで、今回、指導者としては初めて参加しました。本番前の準備訓練時からあれこれ考えを巡らしていたのですが、結果として中々、実施内容を摑みきれていなかったというのが本音です。指導者として反省することが多くありました。あ･･･始めからネガティブな感想でスイマセン。」

イ「いえいえ、摑みきれていないというと、例えばどんなことでしょうか？。」

小「例えば、プログラムの参加はある意味、参加しなければならないと感じていたり、サブキャンプ内でもスカウトにあれはこうだ。こうするべきだということを優先するあまり、スカウトがキャンプライフを楽しんでいるという視点で見ていなかったりなどです。」

イ「なるほど、なかなか厳しかったようですね。では、スカウト達の反応はどんな様子でしたか？。」

小「やはり、ある程度目標を持っているスカウトは、それなりに楽しめていたように感じました。ただ、ベンチャースカウトは何をしたら良いのか迷っている部分も見られましたね。」

イ「活動の様子はいかがでしたか？。」

小「プログラムでは、班旗立てという競技で優勝したり、火起こしゲームでは、イギリスのチームと競った

り、野外料理コンテストではバームクーヘンを作って特別賞をいただきました。あ、野外料理コンテストの写真には、“これぞバームクーヘンだ!!”とキャッチコピーを付けてくださいね。」
イ 「了解しました。(笑)」
イ 「スカウト達は、楽しめたようですね。ジャンボリーでは、他県のスカウトとの交流なども出来ると聞きましたが、その辺りはどうですか？。」
小 「私の隊でもベンチャースカウトが中心となって2回ほど交歓会として実施しました。スカウトが中心となって実施出来たことにより楽しめたと思います。私も個人的に埼玉県連の方と交流してきました。」
イ 「･･･、小林さんの顔が始めの質疑からだいぶ変わってきましたね。ジャンボリーライフを楽しめたように見えますけど。(笑)」
小 「ちょっと話し方を間違えましたかね。始めに楽しい話をして、後から暗くなるよりいいと思いまして。」
イ「ジャンボリーにはいろいろな要素があるようですね。」
小「ようは“お祭り”ですからね。喜怒哀楽はいろいろですよ。喜んだり反省したり。」
イ「なかなか奥が深いようですね。」
小「スカウティングとは、体験によって気付くことが必要だと思っていますから、自分の中でどう楽しむかだと思います。その点、私はまだまだだったかなと。次はもっと楽しみたいですね。」
イ「次は3年後、山口県きらら浜ですね。」
小「ええ。次はもっとしっかり目標を立てて、“おもいっきり遊ぼう”と思います。その時も指導者として行くことが出来ればいいですけど。」
イ「是非、指導者として行ってください。」
小「なんだか、取り留めの無い話ですいません。」
イ「いえいえ、今日はお忙しい中ありがとうございました。」
小「こちらこそありがとうございました。」
※尚、このインタビューはフィクションです。隊長としてジャンボリーに行ったのは事実ですが、このようなインタビューはされませんでしたよ。(笑)

「15NJに参加して」

新潟3隊副長　豊栄2団　赤塚　尊子

8月1日の朝、集合した時、スカウトのみんなの顔つきはまだ子供で、少し頼りないという印象でした。しかし朝霧高原でのさまざまな経験、全国の大勢のスカウトとの交流を通して、スカウト達は大きく成長しました。8月9日に集合した時、みんなの顔つきは、たくましくなっていた様に思います。9日間という短期間にこれだけの成長を遂げることができたのは、彼らの若さという特権もさることながら、普段過ごしている家庭や学校から離れ、普段接している家族や友人と離れ、全く別の場所で全く別の人達と、全く別の体験をすることができたからであると思っています。

今回の15NJに参加した私の目的は、①富士山を近くで見たい。 ②新しく出会う人と交流したい。この2点でした。

自然の厳しさを実体験するという意味で、15NJはまさしく最適な天候条件・自然条件に恵まれました。日程の前半は、昼間の照りつける太陽と突然降ってくる雨に加え、夕方から夜中にかけての濃霧という、目まぐるしく変わる天気。ぬかるんだキャンプ地。夜中降り続いた雨のため、テントが浸水し、テントの中に水たまりが出来ていた事も有りました。後半は、やっと晴れ上がった空に、富士山の姿がくっきり見えた時の感動はひとしおでした。しかし、昼は猛暑で、ほこりの舞う中を数キロも歩き、朝夕はブヨの絶え間ない攻撃、水分補給と体調管理に気を使いました。

さまざまな人達との出会いも有りました。普段接する事の少ない、県内の他団のリーダーやスカウト達と共に生活し、共通の課題に協力して取り組み、感動をもらったことは、何物にも替え難い貴重な経験だったと思います。特に、スカウト達は、他県の個性有るスカウト達との交流を通して、何かを学んでくれたと思っています。外国隊との密な交流が無かったのは、残念ですが、各国の参加隊を身近に感じ、スカウト達の視野が、世界へと広がってくれたのではないかと考えています。

最後に、スカウトの9日間にも渡る15NJへの参加を承諾し、応援して頂いた保護者の皆様、家庭人でもある指導者の長期に渡る不在を認め、支えてくれた家族の皆様にお礼を申し上げます。また今回の派遣隊派遣を実現するために、準備・調整・手配等の作業に尽力頂いた、県内各隊のスタッフの皆様に、厚くお礼申し上げます。

派遣団本部要員体験記

15NJに参加して

長岡1団　西山　好英

第11回久住高原では参加隊隊長として、第14回珠洲ではサブキャンプの配給係として参加して、それなりにやり甲斐と役にたっているかな、と自分では思っておりました。

今回は派遣団要員として参加しました。キャンプ地は「レイク」を割り当てられていましたが、サブキャンプの傍らに、サブキャンプの生活班と共に寝泊まりすることになりました。（少しルール違反かも）

そこで生活班の人員が少ないので、早朝と夕方から生活班の手伝いをしました。そこで驚いたことはシャワー室の使い方です。特に女の子は20～30分も使っていたり、シャワー室に「うんこ」を置いて行ったことが2回、泥足で歩いても洗わないこと、脱衣かごの散乱など目に余る光景でした。男の子も相当なものですが女の子には負けます。1600名の内、女性は300名、男1300名、この人数でシャワーの使用時間の割合は1:2。でも、女性からは時間が足りないような意見が聞こえました。

生活班の指導・管理は？と思いました。

それから派遣団要員の役割はスカウトセンターの新潟のブースへ詰めることです。サブキャンプの「ツリー」から食堂まで片道2km高低差50m、食堂からスカウトセンターまでは500m、そこから食堂に行って「ツリー」へ2km、毎日最低5km、用があるともう一往復。御蔭で1．5kg減りました。しかし終わってしまうと「のど元過ぎれば熱さを忘れる」でしょうか！

8月2日～3日は雨降りで、路はおしるこ状態でシルコロードといわれました。8月8日夜から雨で9日の朝止み、午前中バスに乗るまで降らなかった。午後トラックへの積み込みは雨に降られて大変だったようです。雨が降らなくとも人員が足りず、積み込みに4時間もかかり、現地出発が大幅に遅れました。今後はトラックは使わず、コンテナを使うことです。

大会本部要員体験記

15NJ救護部活動報告

安全救護部　救護班　新潟5団　伊藤　聡

私は前回の珠洲のジャンボリーではサブキャンプの国際班に所属していましたが、今回は本部の救護班に配属されました。これまでのジャンボリーでは各サブキャンプに救護部がありましたが、今回は本部にのみ救護部を設置し、そのメンバーが、出張先の救護所（テント）で働くというシステムでした。出張先にはベッドはありますが、点滴や縫合を必要とする患者は、待機している自衛隊の救急車で本部に送ります。

派遣団のスカウトと一緒にバスで会場入りしたのですが、サブキャンプを見にいく暇もなくすぐに呼び出しがあり救護テントの当番となりました。朝霧高原は標高800mということですが、何しろ今年の猛暑です。それ以降熱中症のスカウトが続出。スポーツ飲料を飲んでベッドに休んでもらい、改善しないスカウは救急車で中央救護所に送り点滴をしました。ごつい4輪駆動の自衛隊の救急車に乗るのもよい経験だったのではないでしょうか（私も一度同乗しました）？　夕食が近づくと、ナタで指を怪我するスカウトが大勢きました。あとでリーダーに聞くと、薪が非常に硬かったとのことでした。また、ブヨの被害は本当にひどかったです。副腎皮質ステロイドの軟膏を塗るのですが、ひどい場合はその上からラップを貼るという治療法を行いました。今回はアイルランド、香港、バングラデイシュなどから外国のスカウトが来ていましたが、彼らも、本国ではブヨ被害の経験はないということで、大変驚いていました。モスキートか？と聞いてくるのですが、違う、とはいうものの、こちらもブヨの英名がわからず、辞書を調べたところ、black flyとのことでした。ちなみにアブはhorse flyです。ところが私も目の上をさされ、片目がふさがりお岩さんのような顔になってしまいました。

中央救護所では毎日2階の点滴室が満杯でした。当直もあり、普段の病院勤務よりも忙しい一週間でした。しかし耳に虫が入ったスカウトの治療や、海外のスカウトとの英語のやり取りなど、日ごろの診療では経験できないことも多く、楽しかったです。いつも思うのですが、ジャンボリーは参加したスカウトにとって本当に素晴らしい経験になります。病気や怪我でつらい思い出だけが残ることがないよう、少しでもお手伝いができたことで、大変疲れましたが、さわやかな気持ちで新潟に帰ってきました。

第15回日本ジャンボリーに参加して

配給部　中蒲原7団　馬場幸雄

私は平成2年第10回日本ジャンボリー（新潟・妙高）での部分参加に始まり、今回が6回目の参加になります。私にはこれが最後のジャンボリーと思い、心してスカウト達になにか役にたてたらと、77歳の躰に鞭打って参加しました。それとメニューや組織の動き等学ぶことでもあったのです。

15回ジャンボリーは、6年後の日本で行う世界ジャンボリーに向け世界ジャンボリー方式を行うべく、プログラムや奉仕者の配置等従来のジャンボリー（日本式）とは異なります。私は本部要員の中での配給部に申し込みました。出発1週間前頃に本部配給部より編成表等が郵送されて初めて庶務班係りと知ったのです。配給部は部長・副部長・部長付2名の計4名以下給食班70名・配給班16名・庶務班8名合計98名での編成でした。ところが給食班にも70名の内から庶務係6名が配置されています。これには少し戸惑いました。

私共庶務班は数日間は給食班に入って手伝いしておりましたが、本部の係わるトイレやシャワー室等の清掃等を当番制により庶務班が担当することになりました。本部サイトにトイレ2ヶ所、給食サイトに1ヶ所、本部要員サイトにトイレ1ヶ所とシャワー室1ヶ所です。その後氷の配給担当も入り仕事もようやく定まり、各自の休憩時間もとれるようになりました。その時間内に新潟県連のサブキャンプ場を見学しスカウト達の様子を見ることができました。

会場からは富士山が大きく見える大変良い場所です。キャンプ地は牧草地帯で高地（海抜約1000

m)位のところです。夜は良かった。30日に着くと雨であった。初めと中間と最後に雨に会う牧草地は火山灰黒土になっており人が歩くと田圃の様にクチャクチャとなります。キャンプサイトではどこでも部分的ではあるが定められた通路しか歩けません。1本の通路を千名以上の人達が朝昼夜と歩くのです。一度雨が降ると3日くらいだめです。大変でした。サブキャンプでも同じでした。

会場での良い点と悪かった点

良かった点

1 日本一高い富士山が目の前で大きく雄々しく見えること。周りは林と牧草地で部分的には牧舎が見えるくらいで静かな所です。

2 会場が広く全体が見られるようなところではなく、サブサイトは西と東に二分されて配置されており、北西の位置がゲームコーナーになっております。

3 食事の時間を長く設定されていたこと。
朝食は朝早く 5:00～8:00、昼食は携行食ではあるが食堂を開放し12:00～13:30、夕食は 17:00～20:00でした。

4 各自マイコップ、マイ箸持参。

5 食器はすべてポイ捨て用カップ容器です。

6 食器洗いがない。トレイを拭くだけ(消毒あり)

7 給食班は自分たちで作らない。すべてサービス担当での作業が行われる。

8 シャワー室は女子用と男子用に別室となり、1人用個室・湯式になり衣籠と棚と流しが設置あり。

悪い点

1 朝早くから準備に入るため早番4時起床のこと。

2 食堂会場は室内スケート場跡でシートを敷いてある所は泥を落とさぬよう対処しなければならない。

3 メニューに問題あり。(保存に悪い食品あり) 特に焼きそばはまずかった。

4 道路・・クチャクチャの部分あり。

5 会場が広く食堂へ出入りするのに大変である。

6 庶務班は不要と思われる。
以上私の係わったことでの思い出を取り上げました。

私の仕事について

始めの頃は作業内容に定めがなく給食班の手伝いをしておりました。数日後に定まった仕事が入って少しづつ心に余裕ができ、共に心を一つに励むようになり、6日頃からは休憩時間を2時間取れるようになりました。その間に他の設置場所やサブ等見学できました。ゲームコーナー等は見学できませんでした。庶務班は最後は共に助け合って働かれたこと等を感謝し、感極まって涙を流しながら皆様とお別れしました。

15回日本ジャンボリーをことなく帰宅できましたこと、私は皆様方のお力をお受けし参加出来たことを心より感謝いたします。

弥 栄

大会本部組織・・・全13部署で構成されています。

総合サービス部	広報部	配給部
サブキャンプサービス部	プログラム部	販売部
大会本部要員サービス部	全体行事部	施設・資材部
ゲストサービス部	輸送部	
オープン参加部	安全・救護部	

大会本部要員体験記　総合サービス部ＩＣＴ統括班に奉仕して

加茂第１団　荒井　誠治

１．新しい組織

今回の奉仕先は総合サービス部ＩＣＴ統括班・・・一体何をするところ？
奉仕の要請があったとき、まずは、そんな疑問からのスタートでした。
（本来「ＩＣＴ」は、インターネット・コミュニケーション・テクノロジーの略です。）

２．当初のＩＣＴ統括班の業務

最終的に、大会運営の裏方仕事、大会に参加の全員が首にぶら下げるＩＤカードの会場の修正や新規発行。関連して、そのためのデータ変更や新規登録。変更した後の派遣隊の隊員一覧表の作成などのいわゆる事務的作業が業務分掌でした。

依頼があって本部要員奉仕を決定したのは今年の４月。何をする部署かと貰った資料を見ると、配布時期ごとに仕事の内容がどんどん変化しています。
本当は、最近のネットワーク時代、15NJ の運営にＩＣＴの技術を生かそうという構想で始まったようですが、誰もが初めての経験で、そのようなものが無くても・・・という“前例”に流されてしまったようです。
逆に、それを要求されても準備が間に合わない時期に奉仕を決定した訳なので、私たち奉仕者にとっては結果的に縮小されて良かった・・・のです。
しかし、作成する名簿は災害等の発生時には避難者名簿に変わり、またプログラムによっては関係官庁への届け出に用いられる重要なものでした。
これらの作業は、今後、もっと頻繁に位置情報が更新される仕組みを作ることで、いつ、急に必要になっても、また避難計画が予め想定した単位で行われないことになっても対応できる重要なシステムになる、重要な仕事と実感した 15NJ の奉仕活動でした。

３．事前課題？

奉仕先での作業は、日本連盟事務局が行なっていた作業を現地で行う性格のものであることから、その業務環境（＝ハード＋ソフト）は、すでに日連事務局にあり、または用意しつつあり、現地では日連事務局担当者と協調して作業するのだと考えていました。
しかし、15NJ の開催日は迫っても、依頼していたソフトの操作説明等の会議開催の話も無く、日にちだけが迫ってきます。もしかして？と不安が増して連絡を取ると、あるのかないのか・・・念のため、自分で基本的なソフトを作って持って行くことにしました。

今回の 15NJ では、インターネットで県連等が入力した派遣隊参加者登録や、奉仕者個人が入力した本部要員や派遣団本部要員の申し込みデータが最終的に業者に送られ、ＩＤカードと派遣隊の到着受付リストが印刷され、７月中旬に県連に配送されて来ました。

これと同じ作業を会場で行なうということから、県連に送られてきたＩＤカードを元に各種参加者区分の印刷内容を類推して、数種類のＩＤカード印刷ソフトを作成しました。派遣隊は、追加や変更された後の、最新参加者名簿が必要だろうし、派遣団要員、大会本部要員の県連別受付リストも必要だろうとそれらのソフトも加えて、最低限のソフトと、あとは人海戦術で乗り切るシステムでした。

４．いざ朝霧へ

派遣隊の到着は８月１日、それを受け入れる派遣団要員、大会本部要員の到着は７月30日、さらに、それらの受け入れ担当者は７月29日（施設資材などはそれ以前から）に現場に入って準備作業開始です。

まずは７月29日、翌日の派遣団要員・本部要員受付確認一覧表の作成。
これは46都道府県（宮崎が口蹄疫で派遣を自粛したためマイナス１）約2000名の一覧表の作成をして到着を待ちます。
７月30日、到着した派遣団要員と大会本部要員の個人データの修正と新規作成作業。
到着後の作業なので決起大会に出るどころではありません。
翌８月１日は派遣隊の到着。到着が各県連で確認され、総合サービス部に報告されたあとからＩＣＴ班の仕事の本番が始まります。
この対象者が約16,000人。この何割かが変更の対象となり、参加スカウトや指導者の入れ替えがあります。
いやぁ、大変でした。徹夜作業もありました。

念のため用意したソフトはネットワークアプリケーションでありませんから、まずはＩＤカードを印刷して「翌朝、県連に渡す」ことを目的に、ＩＣＴ班要員が担当する数台のＰＣごとのデータファイルを修正してＩＤカードを印刷します。それが徹夜作業。
その後から一台のＰＣで、参加者の変更や追加、欠席などを正しくデータに反映させるために再度作業。データファイルを変更、追加して行きます。これも大変で、一日では終わりません。
結果、翌日まで修正にかかり、その後、作業内容が追加され、紙の名簿を作ることになって、コピーや、仕分け、穴あけ、ファイリング作業で、また準徹夜作業をお願いしました。

NJの参加費を支払ってつらい仕事をして・・・これだけの仕事を会社でやったら、残業手当が増え、お小遣いが増える状況・・・そんなことを考えたら、NJは人数的に一つの町の経済行動と同じ・・・すごいことなのだと改めて考えてしまいました。
ＩＣＴ班要員の皆さんには本当にお世話になりました。
派遣隊のみなさんの前に一度も出ることは無かったけれど、裏方仕事で一致団結のチームワークを味わった大人の15NJでした。

岡田武史サッカー日本代表監督メッセージ

みなさんこんにちは！

サッカー日本代表の岡田武史です。ワールドカップの時は、みなさんも応援してくれたと聞きました。ありがとうございました。今日は、ボーイスカウトから、何やら章をいただけると聞いてやってきました。奥島理事長さんとは、ワールドカップに行く前に某新聞の対談で、非常に激励していただき、そのおかげで勝てた。そして勝ったことで、ひょっとしたら、ご褒美をいただけるのではないか、と思っています。僕も、子どものころがありました。そして実はカブスカウト、ボーイスカウトに入っていました。でも不器用で、ロープを結んだり、手旗をしたりが苦手で、なかなか技能章がとれなかった。でも40年後に大きな章をもらえるということで、技能章よりずっと上の章をいただけると思って、非常に喜んでいます。そういう意味で、今日ここまで遠かったんですが、やってきました。

今回のジャンボリーは「環境との共生」ということがひとつのテーマになっていると思います。僕は環境活動を30年ぐらいやっています。昨日も環境省へ行ってきたところで、「チャレンジ25」という活動をしています。地球環境について、色々な人が色々なことを言いますが、一つ、よく考えて見てください。地球の人口は、1900年には15億人でした。50年後の1950には30億人で倍。2000年には60億人で更に倍。そして今、68億人を超えようとしています。人口が増えると共に地球が大きくなれば問題はないのですが、残念ながら地球はまた、環境に対して強くならなければなりません。地球は生きています。地球の環境は変わっていきます。その中で「ちょっと気温が上がったら、もう僕だめ」、そんな人間はすぐ死んでしまいます。そうではなくて、少々環境が変わっても頑張れる人間。ちょっとのことではあきらめない、チャレンジする人間、そういう人間が必要です。これはボーイスカウトの活動そのものだと思っています。僕は今後、ボーイスカウトの活動をできる限り支援していきたいと思います。みなさんもサッカーを応援してください。

今日ここへ来て、ボーイスカウト日本連盟の方から教えていただいた素晴らしい言葉があります。ちょっと読みます。ボーイスカウトもサッカーもイギリスが発祥です。ベーデン・パウエルというボーイスカウトをつくった人が言った言葉です。英語は読まず、日本語訳だけを読みます。「フットボールをするとき、あなたは、あなた自身が楽しむだけでなく、味方が勝つようにゲームをする。結局それがスカウトの義務である。」どういうことか。「自分が楽しくて、自分が満足していれば、チームが負けたっていい」。それでは意味がない。今回の代表チームを見てください。自分がエースだと言われたり、レギュラーだった選手がベンチにいました。悔しくてしょうがない。冗談じゃないと思うでしょう。でも、彼らは何をしたか。チームが勝つために自分ができる限りのことをしてくれました。それが本当のチームプレイです。僕は改めてサッカーとボーイスカウトがこんなことで繋がるとは思わなかったですけれども、みなさんもぜひ、この言葉を忘れないで欲しい。今、わからなかった人は、後で日本連盟に行って聞いてください。

我々日本代表チームは、日本人としての誇り、そして日本という国を愛する心をもって戦いました。日本人の魂をもって戦ったつもりです。このジャンボリーの大会テーマは「世界に向かってでっかく羽ばたけ」。素晴らしいじゃないですか。世界に羽ばたく時に、自分の母国を愛せない、また自分の国を誇りに思えないでどうやってはばたけますか？みんなもぜひ、日本という国に誇りを持って、そして世界へ羽ばたいてもらいたいと思います。ただ、忘れてはいけないことが一つあります。日本人だけでない。世界中のみんなが同じように自分の国を愛し、自分の国に誇りを持っている。日本人だけが国を愛し、誇りをもっているのではなく、世界中の仲間がそれぞれの国を愛して、誇りを持っているということを、知っていなければなりません。我々はパラグアイにPK合戦で負けました。その時にパラグアイのスーパースター、サンタクルスが一人、パラグアイの選手が自分の国を愛して、誇りをもって、勝利を喜んでいるところから外れて、日本の選手のところへ来て、一人ひとりと握手をしてきました。彼は日本の選手も国を愛し、誇りを持っているということを知っていました。そういうすばらしいスカウトにぜひなって、世界へ羽ばたいてもらいたいと思います。以上ありがとうございました。（この後、スカウト褒章授与、弥栄）

第15回日本ジャンボリー(15NJ)見学記録

小千谷1 CS副長 宮崎育子

(長岡あれこれ情報誌 マイ・スキップ9月号より転載)

平成22年8月2日(月)～8日(日)静岡県富士宮市朝霧高原で、4年に一度のボーイスカウトの祭典・日本ジャンボリーが開催された。

日本ジャンボリーは昭和31年軽井沢で第1回日本ジャンボリーが行われて以来、15回目。会場となった朝霧高原は、かつて昭和45年第5回日本ジャンボリー大会(5NJ、そして翌46年に、日本国内で初めての世界ジャンボリー(13WJ)が開催された場所。

大会のテーマは「世界に向かってでっかくはばたけ！」。日本全国から2万人のスカウトが、朝霧高原で七泊八日、野営をし、親睦を深めた。新潟県からも、3隊119人のスカウトが参加した。また、ジャンボリーには、国内のスカウトだけでなく、世界中からのスカウトがゲストで参加。例えば新潟第2隊のテントサイトのお隣はタイからの派遣団。ジャンボリーへの参加だけでなく、空き時間にはバレーボールの試合などを通して、親睦を深めていた。

今回の15NJの目玉は、5日の朝食。朝ご飯として支給されるのは、トウモロコシの粉のみ。これは飢餓支援食で、これを食べることで世界の飢餓に思いをはせる。現在、世界では6人に1人が飢餓に苦しみ、5秒に1人の5歳未満の幼児が飢餓に関連する原因で命を落としているという。飽食の日本の少年たちにも、飢餓で苦しむ子どもたちのことを思ってもらうことが狙いだ。また、このプロジェクトで感じたことをスカウトが記入したメッセージカードでモニュメントを作成、アリーナに展示する。さすがに、スカウト活動はユニセフが認定した世界的な青少年教育組織である、と感じた。この催しについては、あらかじめ各ボーイスカウト隊に周知してあったため、各隊では、トウモロコシの粉をどうやっておいしく食べようか、あの手この手で研究を重ねてきていたようだ。新潟第2隊でも、訓練キャンプ以来、隊長やリーダーが、かなりの研究をしたものの、やはり、今一歩、常食にしてもいいレベルにまでは至らなかったようだ。改めて、少年たちは、改めて飢餓のない世界を目指そうという思い、日本に生まれてよかった、という思いを持ったようだ。

ボーイスカウト隊年齢(小学6年生～中学2年生)に達しないと、ジャンボリーへの参加は出来ないため、小千谷第1団カブ・ビーバー隊(幼稚園年長組～小学5年生)では、8月6日に朝霧高原にジャンボリーを見学に行った。

会場は時節柄セキュリティのため、各スカウトがテントで寝泊まりするブロックは、日中出入り禁止となり、日中はスカウト広場や場外で行われる各プログラムに参加する。

外来者もこの活動エリアでは自由に各プログラムに参加できる。見学隊は、小千谷第1団ボーイ隊のスカウト諸君たちと、感激の対面(？)を果たした後、一緒にエリア内を見学した。

当日のエリアでのプログラムは信仰と絆。信仰では、仏教各宗派を始めキリスト教、神道、イスラム教などが各ブースでそれぞれの信仰について丁寧に説明してくれた。このコーナーを一周するだけで、世界各地の宗教のエキスパートになれる。

絆のプログラムは、各地のスカウトたちの屋台が出て、名古屋名物みそパンなどが破格で販売されたり、各隊の自慢の野営料理が振る舞われた。

親元や地元のしがらみから逃れ、毎日雄大な富士山を見て過ごす一週間は、少年たちにとって、一生涯の思い出になることは間違いない。現に、スタッフとして大会の運営進行にあたっているリーダーたちの中には、昭和45年の5NJ、翌年の13WJに参加した感激から以後もスカウト活動に邁進している人たちが多い。帰路に立ち寄った白糸の滝・売店のオーナーもなんと5NJ参加のスカウトOBで、スカウト関係者に限り消費税サービス！をしてくれたのには、苦笑してしまった。

カブ・ビーバー隊諸君は、だだっ広い会場いっぱいの2万人の熱気に圧倒されながら、四年後山口県で開催される予定の16NJへの参加を期待していた。

リレー寄稿

軽井沢・別荘「鳩山一郎邸」訪問記

（第一回日本ジャンボリー　昭和31年8月）　長岡3団　団委員長　　鈴木　正

昨年度SFS委員会が栃尾・道院高原「ロッジ道院」で10/26～27開催されました。その折、標記の件が話題として賑わいました。かすかな記憶をたよりに、当時の活動を掘り起こしてみる。

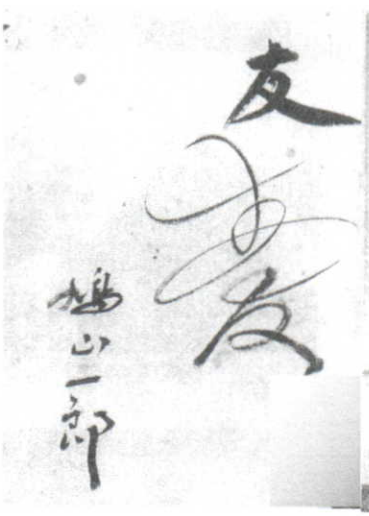
「おじいちゃーん。ボーイ・スカウトの子供さん達がお会いしたいそうーでーす。」と前鳩山首相の母君の大声が中庭で響く。間もなく了解がとれたらしく「お会いくださるそうよ。こちらから、どうぞ」と、大きな門から広い芝生の中庭を通り、別荘「鳩山一郎邸」を案内していただく。

この場面に遭遇したスカウトは12名。軽井沢駅前で長い待ち時間を持て余していた。軽井沢めぐりを募ると、この12名が応募し、散策が始まる。大きな池のほとりで全員のスナップ写真をとろうとしていたら、親切なご老人が通りかかりシャッターを押してくださる。すると、このご老人から「鳩山一郎さんに会いたければ、裏の威一郎さんに頼んでみなさい。」と唐突な話を聞く。半信半疑しばらく散策。すると大きな門のある別荘に巡り合い、「鳩山威一郎」の名札を見つける。しばし思案。皆に相談すると、多感な年頃、時の首相に会いたいの大合唱。そこで前首相の母君にお願い。快諾を得て、時の宰相「鳩山一郎邸」を訪問し、交歓の機会を得る。

交歓-1回目・・・時は日ソ交渉で首相が帰国し間もない頃で、正門前は厳重な警備で一般の人は近付けない状況。しかし、別荘内は首相の人柄からか穏やかな時間が流れている。玄関前での交歓であるが、首相からジャンボリーの様子を聞かれたスカウト達は全国のスカウト達に「佐渡おけさ」を披露したこと等を口角泡を飛ばして返答していたことが印象深い。記念写真で、スカウトの一人が自分のハットを首相に被せパチリ。その興奮からか佐渡おけさの編み笠をプレゼントすると申し立てる。再度訪れる事を約束し退散。

交歓-2回目・・・駅前の集合場所に帰り、これまでの経過を井上晃英隊長に報告すると「発車時刻が間もないから、レンタル自転車で行き、何か一筆書いてもらったら」と言われる。希望者を募り自転車で隊列を組み堂々と正門から玄関へ。編み笠を進呈しスケッチブックに「友愛」の揮毫を5枚していただき、全員交歓の握手をしてお別れとなる。

これらの出来事は、軽井沢散策で何か宝物を拾った思いがある。スカウト達の貴重な体験として生き続けていることだろう。



（次は　長岡1団　星栄一様にお願いします。）

県連便り

第41回カブラリー・第23回ビーバーラリー

9月12日　新発田市五十公野公園で開催されました。天気予報が悲観的の中、公園→体育館→公園と設定場所に悩みましたが結果は大成功。終盤には日差しにも恵まれ大成功裡に終えることができました。

全22団　ビーバー67人　カブ153人　指導者29＋85人　総勢334人、この他にご家族多数の見守る中10時半開会。理事長から下記のあいさつをいただきました。

「雲行きは悪いが天候のように人間の力ではどうにもならないことがたくさんある。それに備えることが大切。スカウトのモットー“そなえよつねに”を忘れずに。」

新発田1団手作りの竜神様の入場を機に、お待ち兼ね今回のテーマに沿った各団のパフォーマンスが始まりました。スーパーマン、鬼太郎、ターザン、ドラえもん、マイケルジャクソン、バットマンなど多くの子供たちのヒーローが登場し笑いあり拍手ありで盛り上がりました。昼食後各地区が工夫を凝らした9ヶ所のゲームコーナーで楽しい挑戦をしました。閉会式ではヒーローの表彰があり、最優秀賞・優秀章・努力賞を手に無事解散しました。

扮装大賞は下記の隊でした。・・・おめでとう！！！

［ビーバー部門 新潟15団

［カブ部門］　長岡1団　新発田1団　上越3団

新潟15団　小千谷1団

（多くの団の工夫されたところを紹介したいのですが、申し訳ないことにカメラを忘れてしまいました。提供していただいた1枚のみ掲載します。）

＜小千谷1団・・何の扮装でしょうか？＞

SFS委員会便り

9月6日に委員長会議を行いました。本年度の全体集会を下記のとおり行うことを決めました。

役員会議　10月16日(土)　長岡　11月 6日(土)　新潟

SFS全体集会	開催日	平成22年11月14日(日)　13:30－16:00
	会　場	新潟テルサ(新潟勤労者福祉センター)小会議室(2
		新潟市中央区鐘木185－18
		025－281－1888
	内　容	平成21年度報告/平成22年度計画
		講演会(約1時間)

SFS会員各位
全体集会にご都合の上出席頂きたくご案内いたします。

あとがき　15NJ『世界に向かって　でっかく羽ばたけ』をテーマに仲間との友情を深め、競いあい、助けあい様々なプログラムに、自らの可能性にチャレンジした。猛暑と異常気象の中スカウト達も雨の洗礼を受け、雨の中の設営・キャンプ生活も、彼らを一段とたくましく成長させてくれたに違いない。

ＳＦＳ委員会編集長　遠藤安一　〒940-0864長岡市川崎2-2620-5 TEL&FAX 0258-34-7444 E-mail y-t-endo@m2.nct9.ne.jp